

JICA ニカラグア国グラナダ地域保健プロジェクト

日本政府とニカラグア国政府は、2000年10月に、JICA を通じた国際医療協力プロジェクトに合意し、同年12月より4年間のプロジェクトがスタートした。このプロジェクトは、同国のグラナダ県保健局の地域保健の向上を目的とし、1) 一次医療サービスの質の向上、2) 県保健局事務所及び地域保健事務所の管理・運営能力の向上、3) 一次医療施設と県病院（日本ニカラグア友好病院）との連携強化、そして4) 地域社会の保健活動への参加の強化を目的として実施されてきた。

今回の出張は、2002年7月4日から11日の間、グラナダ地域保健プロジェクト運営指導調査団（団長 若井晋東京大学国際地域保健学教室教授）の一員として、本研究所の高橋重郷（人口動向研究部部长）が参加したもので、プロジェクトの進捗状況の把握と今後の協力の見直し、同国政府および関係機関からの要望等を把握し、今後のプロジェクト運営について協議を行った。（高橋重郷記）

第14回国際エイズ会議出席

国際エイズ会議は隔年で開催されている会議であり、今年は沖縄サミットでの日本のリーダーシップに端を発する「世界エイズ・結核・マラリア対策基金」の運用開始後最初の会議でもあった。本年7月7日から12日開催の今回の会議では、途上国での治療薬へのアクセスを改善し予防活動を拡大することが重要なテーマであった。

HIV/エイズは世界的規模の深刻な人口問題となっていて、2001年末現在の HIV 感染者の推定数は4000万人に達していると UNAIDS は報告している。これらの人々がエイズを発症し死亡することを避けるためには、途上国で効果的で安価な治療薬の供給とそれを処方し管理をするキャパシティの確保が緊急課題である。また、すでに2000万人以上が HIV に感染して死亡したと考えられている。サハラ以南のアフリカでは2850万人が感染して流行が集中しているが、決してアフリカだけの問題ではない。東欧と中央アジアでは、主として注射薬物使用による感染により、2001年だけで25万人の新規感染が発生し、現在100万人が感染していると推定され、実に4分の1の感染は去年一年間に発生している。また、ハイチ（成人有病率6%）やバハマ（成人有病率3.5%）などアフリカに次ぐ水準の流行となっているラテンアメリカ・カリブ海諸国や、2001年には100万人が新たに HIV に感染し、660万人が感染しているアジア・太平洋地域も深刻な状況である。日本でも感染は拡大しつつある。

今回の会議では、とくに若者の感染についてクローズアップされていた。新たな感染の5割が15～24歳という状況のうえ、世界で HIV に感染している若者の数は1180万人と推定され、将来を担う世代に蔓延しつつある HIV 感染に対する強い警告が発せられている。しかし、若者は感染に対して脆弱であるが、同時に予防に対する反応も良いことが会議では強調されていた。

方法上の新たな展開の一つとしては、エイズによる孤児数の推計モデルが精緻になったことが挙げられる。新しいモデルでは、母親のエイズによる死亡とその他の死因による死亡、父親のエイズによる死亡とその他の死因による死亡を区別して推計している。その結果、サハラ以南のアフリカでは3400万人以上いる孤児のうち、1100万人がエイズによるものである。一方、アジアでは実に6500万人の孤児がいるが、現在のところエイズによる孤児は180万人にとどまっている。（小松隆一記）